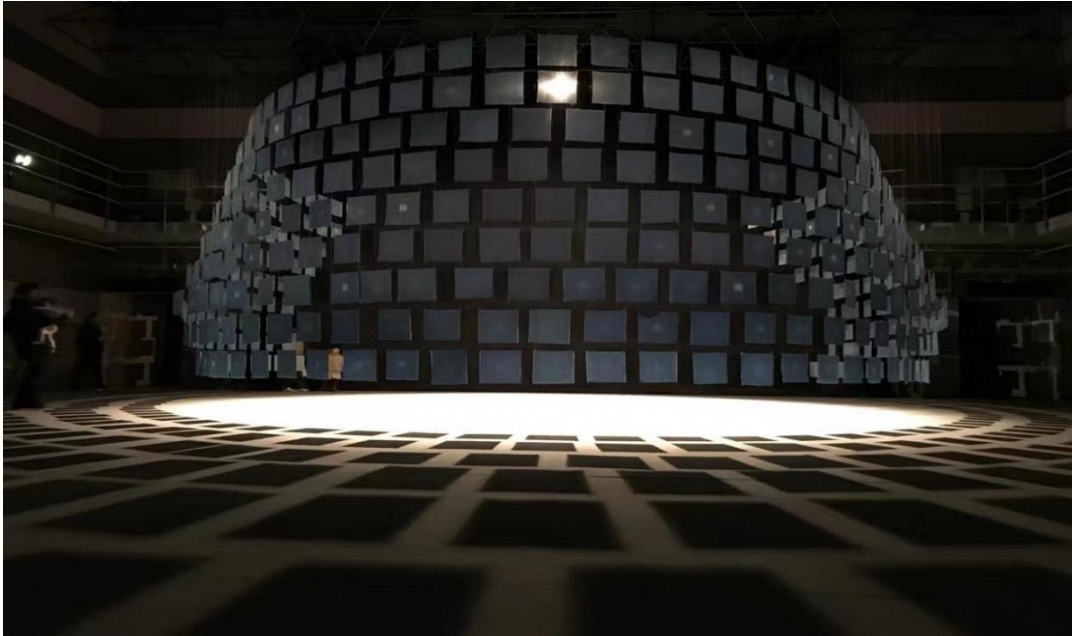


## 在鸣门 第142期

### 藍のけしき 藍之風景



1月20日から28日まで、徳島県立二十一世紀館イベントホールで「藍のけしき」という空間展覧会が開催されました。展示品は2017年夏に染めた藍染めのハンカチです。これらのハンカチは日本、アメリカ、イギリス、イタリア、オーストラリア、カナダ、チリ、ドイツなどの世界各国の451人の参加者が約5ヶ月間保存し、再度2018年1月に徳島県に集められ、展覧されました。

会場内は、心地よいインスト音楽が流れ、ハンカチは軽く揺れています。お客さんは近くまで一枚一枚を見ることができ、遠いところで鑑賞することもできます。私は近づいたり離れたったりしてこの神秘幻想的な世界から離れることができませんでした。

1月20日至28日，在徳島県立二十一世紀館活动大厅，举办了名为“藍之風景”的徳島藍染艺术空间展。展品为2017年夏天制作完成的徳島藍染手絹。藍染手絹由身在日本、美国、英国、意大利、澳大利亚、加拿大、智利、德国等世界各国共451名活动参加者各自保管了约5个月之后，于2018年1月再次汇集到徳島县进行了展出。

展厅内轻音乐舒缓悦耳，悬挂于空的手絹轻微晃动。参观者可以靠近欣赏每一块手絹的模样，也可远望展品整体景象。我时而靠近时而远望，置身此神秘梦幻般的世界，久久不忍离开。

参加者は藍染め後のハンカチを紙箱にいれ、展示に使用するまでは、自宅で飾ったり、外出時に携帯したりなど自由に保管することができます。ハンカチは箱の上にある丸または正方形の穴から参加者の生活振りを覗いています。まさに、ハンカチの変化は参加者の日々の生活に関わっているのです。

私も参加者の一人であり、2017年8月に、徳島県の藍染め施設である「藍の館」でハンカチの藍染め体験をしました。その後、藍染めのハンカチを箱に入れ、リビングに置いて保管していました。2018年1月、ハンカチを展覧会の主催者へ送りました。

今回のイベントを通し、藍染め体験は、勉強にもなりましたし、自分の生活の中でも楽しさと感動が増え、非常に意義のある出来事でした。



紙箱の様子  
紙盒整体模様

参加者将完成蓝染染色的手绢装入纸盒内后自由保管直至展览会开始。参加者可将纸盒装饰在自己家中，也可在外出时将其随身携带。手绢可从纸盒的圆形或方形开孔处“窥见”参加者的生活起居。因此，手绢的颜色变化与参加者的日常生活息息相关。

我也是本次活动的参加者之一。2017年8月，我前往德岛县的蓝染作坊“蓝之馆”进行了染色操作。然后将布块装进纸盒中，再将纸盒放置在起居室保管。待到2018年1月，我将手绢寄送给了主办方参加展览。

通过参加本次活动，亲身体会蓝染染色的同时，不仅增长了蓝染知识，也为自己的生活增添了一份期待和感动，深感意义重大！



私の藍染めのハンカチ  
我的蓝染手绢

藍染めは抗菌、防虫防腐などさまざまな効果があります。藍染めの製品は日本で幅広く使われており、藍染めの青も日本の代表色です。明治8年(1875年)に来日したイギリス人化学者アトキンソンが「ジャパンプルー」と呼び始め、その後、広がっていたと言われていきます。徳島県は、藍染めの原料の最大の産地です。徳島の旧称は「阿波」であり、徳島県産の藍は「阿波藍」と呼ばれています。「阿波藍」は平安時代(794-1192)に起源し、徳島県は優れた自然環境に恵まれ、当時の徳島藩主の多大な支持もあり、江戸時代(1603-1867)に至るまで、繁栄を極めました。しかし、インド製の藍と化学合成の人工藍の輸入により、日本国内の藍づくりは衰退していきました。

時代が変わり、天然藍は再び人々に見直され、再発展の道を進んできました。2020年の東京オリンピック・パラリンピックのバッジも藍染めの青が使われています。手元に置きたい可愛い藍染めの工芸品もあちこちで見られるようになりました。



2020 東京オリンピック・  
パラリンピックのバッジ  
2020 東京奥运会・残奥会会徽

天然藍染具有抗菌、防虫防腐等多重功效，蓝染制品在日本被广泛使用，蓝染染出的蓝色成了日本的代表色。据说，明治8年(1875年)，来日访问的英国化学家 Robert William Atkinson 第一次称呼日本蓝色为“日本蓝”。而后，此称呼流传至今。徳島县是日本天然蓝染原料的最大产地，徳島县古称“阿波”，因此，徳島县产的蓝染被称作“阿波蓝”。徳島县的蓝染起源于平安时代(794-1192)，因徳島县的优越自然条件，以及当时的徳島藩藩主的鼎力支持，蓝染产业不断发展壮大，至江戸时代(1603-1867)盛极一时。然而，随着印度蓝以及化学合成的人造蓝陆续进入日本，日本国内的天然蓝染产业逐渐走向衰落。

随着时代变化，天然蓝染重新走进了人们的视野，开启了天然蓝染的复兴发展之路。2020年的东京奥运会及残奥会的会徽的颜色即采用了此蓝色。此外，在各地特产店内陈列着品类多样的天然蓝染相关的工艺品，精致可爱，令人爱不释手。



藍染めのカード入れ  
藍染封面卡片夹

日本語では、「藍」の発音は「愛」と同じです。「阿波藍」を聞くたびに、「阿波愛」が思い出されます。人々が藍染めへの深い「愛」を持っているからこそ、藍染めの復活ができたのではないかと思います。「藍」は徳島にあり、「愛」も徳島にあります。皆様、是非、徳島にお越しいただき、「阿波藍」の魅了する「けしき」を実感してみてください。

在日语中，“蓝”字的发音和“爱”字的发音相同，一听到“阿波蓝”，便会令人想起“阿波爱”。我想正因为人们对蓝染的热爱，才有了天然蓝染的重生。“蓝”在徳岛，“爱”也在徳岛，朋友们，欢迎大家来徳岛亲身感受“阿波蓝”的迷人风景！

部门：鳴門市観光振興課

地址：鳴門市撫養町南浜字東浜 170

(〒772-8501)

TEL：088-684-1746/FAX：088-684-1339

E-mail：[kokusai@city.naruto.i-tokushima.jp](mailto:kokusai@city.naruto.i-tokushima.jp)

编辑：翟羽佳